



内閣府（防災担当）

防災対応のための南海トラフ沿いの異常な 現象に関する評価基準検討部会（第4回） 議事要旨

1. 検討部会の概要

日 時：平成30年11月22日（木） 13：00～14：30

場 所：中央合同庁舎第8号館3階 災害対策本部会議室

出席者：山岡座長、井出委員、宇根委員、小原委員、汐見委員、堀委員、宮澤委員、
横田委員

2. 議事概要

事務局から本部会のとりまとめ（案）の説明を行い、半割れケース、一部割れケースの評価基準等について概ね賛同が得られ、以下をはじめとする幅広いご意見をいただいた。

- 代表的な統計モデルとしてETASモデルが知られているが、これ以外のモデルも開発されているので、ETASモデルが唯一のモデルであるような誤解がないようにするべきである。
- 想定震源域の破壊は、紀伊半島以東と以西が順に破壊するような典型的な破壊とならず複雑に破壊する場合も考えられる。多様な割れ残りの様態を意識し、南海トラフの想定震源域全体での防災対応を検討することが重要である。
- ゆっくりすべりが発生した場合の地震発生の高まりは、定性的な評価のみが可能であり、定量的な評価ができると誤解されないように注意する必要がある。

<本件問い合わせ先>

内閣府政策統括官（防災担当）付

調査・企画担当企画官 高橋 伸輔

同参事官補佐 岩村 公太

TEL：03-3501-5693（直通） FAX：03-3501-6820